

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470502133		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム 楽々八景山		
所在地 (電話番号)	〒737-0904 広島県呉市焼山町字打田623番地 (電話)0823-30-3578		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成22年2月15日	評価確定日	平成22年3月17日

## 【情報提供票より】(H22年1月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7

### (2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設/単独	<input type="radio"/> 新築/改築
建物構造	鉄骨 造り 2階建ての 2階 ~ 一部1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費1日380円	
敷金	有( ) 円	<input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,250 円	

### (4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.8歳	最低	74歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	脇田医院(内科・外科・整形外科) ・ 田口歯科医院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、社会福祉法人に属する、2階建ての2階部分を活用した1ユニット(9人)のホームである。洋を基調とした建物は、階下(1階部分)はデイサービスで母体組織(特別養護老人ホーム)の敷地内にあり、法人母体を中心に各事業所ときめ細かな連携を取りながら、入居者一人ひとりが今までの暮らしと変わらず、愛情と笑顔を絶やさず共に尊敬しあい、生きる事への支援に取り組まれている。ホーム庭から里山に続く四季折々の自然を満喫しながら、明るくゆったりとした居住空間の中、個々の入居者が穏やかな表情で、人生を楽しんでおられる姿がうかがえる。職員も入居者と寄り添う事を念頭に置き、常に入居者と共に生活するよう環境に努めている。入居者と職員も家族のように和気あいあいと満面に笑顔を湛えた姿が印象的である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題として、「重度化や終末期に向けた方針の共有」の項目に医療機関との連携を十分に行う必要性を指摘されていたが、事業所として改善に向けて取り組み、家族との話し合い・医師、看護師との連携も図られ十全の対応がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全員で自己評価に取り組み、評価で見出された課題について改善計画を立て、サービスの質の確保・向上に取り組まれている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、事業所側からの報告とともに、参加者からも率直な意見や要望を受け改善に向けた具体的な取り組みをされている。ホームとして、サービスの質や更なる向上・確保に活かしつつ、この機会を活かして支援に関する真の理解、誤解や実態について、地域や専門職の人々への働きかけもなされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月の利用料持参時及び来所時に小遣い帳、毎日の日誌、事業所発行の広報誌等を手交し状況の詳細報告に努めている。家族の相談・要望を積極的に聴き、意見や苦情は即座に対応されている。更にその発生要因を探り、課題を検討し、サービスの質の向上につなげている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に買い物や散歩の際、地域の方々と挨拶を交わしたり、話をしたり、自治会行事の参加や保育園・小学生の訪問、中学生、高校生の体験学習のみならず放課後の訪問等も受け入れ地域の子供たちとのふれあいもある。管理者は地域講演等を通じて「真の福祉・社会の現状」を話され、地域福祉の先駆者としてアドバイスされている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時、全職員で考え、話し合っ創りあげている。入居者が地域の中でゆったりと、伸びやかに過ごし、自立支援・地域貢献等の趣旨が盛り込まれた、事業所独自の理念がつくりあげられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、リビングルーム・事務所に「書」にして掲げられている。又、諸会議資料の冒頭に理念を記入し、事あるごとに初心・理念を振り返り、日々のケアに実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物や外出時地域との交流を図りつつ、ハンドマッサージや囲碁等ボランティア活動の人々や、階下(1階)のデイサービスの利用者の方々との交流もあり、近隣の県立高校生の受け入れも柔軟に対応され、地域との交流に努力されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価は、日々の自分たちのケアを見つめ直す絶好の機会と捕らえ、職員全員で評価結果を真摯に話し合い、更なるケアの向上に活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市の介護保険課長・民生委員・区の児童委員会長・地域包括支援センター長・家族等参加の下、定期的開催されている。会議では入居者の日々の暮らし、行事、自己・外部評価の報告等以外にも、事業所の方から「介護」について正しい理解を求めよう、日々の業務から得られた事を発信するよう努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所・地域包括支援センターの方々に、積極的に働きかけ連携を深められている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶり、健康状態、職員の異動、更に金銭ノートと毎日の日誌、事業所発行の広報誌を毎月のホームの利用料支払日に家族へ手交・報告がなされている。又、家族の来所時にも現況報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から、家族が面会時・毎月の利用料持参時に気軽に相談できるよう心がけ、話しやすい雰囲気作りに努めている。また、年1回事業所独自の家族アンケート調査を行い、極力家族の意見を日々のケアに反映出来るよう努められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は開設以来、退職による1名のみで異動は殆んどない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人全体及びホーム内、外部研修等で教育・研修を受ける機会が確保され、研修内容等もミーティングで共有され、職員もスキルアップに向け積極的に取り組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に他のグループホームとの交流はないが、個人的な接点による交流や母体法人との情報交換を行いながら、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や、家族との話し合いにより「安心と納得」の確保に努め、不安なく暮らせるように配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や後片付け・洗濯物たたみ等は、入居者ができる範囲でお願いし、職員は感謝の気持ちを伝え、入居者から生活の技や生活文化を教わる場面も、日々の中で伺える。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉・表情から入居者の希望や意向を汲み取り乍ら、家族からも生活暦や時代背景を聞き参考にされ入居者の思いを把握しケアに活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、入居者や家族の意見や要望をもとに、全職員が意見交換しながら作成され、一人ひとりのその時点にそった個別の内容となっている。。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングの実施・評価により新たな介護計画の作成、日々の生活の様子を職員が詳細に日誌に記入し、介護計画の見直しが必要と思われる場合は、家族・関係者等で話し合っ現状に即した計画の見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今までの生活の延長としての支援が行われ、その中で個々の満足度を高めるよう努力され、同一敷地内の特別養護老人ホーム、階下(1階)にあるデイサービスの活用、初詣・紅葉狩り・外食等外出支援、外泊等々柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望、納得を得た上で、月2回のかかりつけ医、訪問看護ステーションの受診、体調変化時の通院支援など適切な医療が受けられる支援体制がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化・終末期の対応について、事業所の方針を看取り介護に関する同意書で家族に説明し、全職員が終末期を迎える心構えをしっかりと確認し、事業所として対応できる最大のケアが可能となるよう支援されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、丁寧な言葉遣いや個々の人権を尊重した対応がなされ、個人情報・記録等の取り扱いについても適切な取り扱いがなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを守りながら、無理強いせず、見守りながら一緒に生活を送り、買い物や散歩、機会を見つけ外出支援による気分転換など柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好み・意見を聞き乍らメニューを作成したり、入居者の希望や出きる事を最優先にし、食事準備・後片付けをお願いし、喜びや楽しみにつなげている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の習慣・希望を極力最優先し、本人や家族の安心と満足、安全な入浴、体調の改善につなげている。時として階下のデイサービスの広い浴室も活用し、入居者から「温泉」に入ったと喜ばれる場面も伺えた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活暦や、日々の関わりの中で入居者の持てる力を見出し、取り戻し、喜びと張りのある日々が送れるよう支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者本位の外出支援がなされ、買い物・散歩・自分たちで作った畑の作物の収穫等、また天候不良時には里山の自然が楽しめるベランダで散歩や土いじりが楽しめるよう工夫がなされている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は安全確保の目的以外での施錠は行っていない。日中は職員一人ひとりが鍵をかけない目的を理解されており、日々実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練が実施され、法人内での応援体制も確立され、その都度検討・対策が話し合われ危機管理体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は一人ひとり摂取状況を把握し、記録がなされ、習慣・状況に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に「書」や絵画が飾られ、広いベランダ・ゆったりとしたリビング・開放的キッチン等、ほど良く配置・調和したソファ、テーブルに季節感あふれる緑があふれ、ゆっくりと穏やかな時間が流れゆく空間に独りで寛いだり、仲間と語らったりと居心地良く、和やかに過ごされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりと広く、プライバシー確保に配慮された2間続きの居室構造となっている。使い慣れた家具、仏壇や趣味の碁盤を持ち込んで、居心地良く安心して過ごせる居室となっている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム楽々八景山

評価年月日 22年 2月 15日

記入年月日 22年 1月 18日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 介護副主任 氏名 市村 好則

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	新設時、職員全員で理念を作り決定した。その理念はいつでも見えるところに掲げ、朝礼時に唱和している。新人教育の時にも、まず理念の意味から教え、職員全員が何かを考える時には理念に基づき行動するよう心がけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	リビングルームに基本理念を「書」で書いて掲げ、事務所の中にも掲げている。常に初心を忘れないように心がけている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	リビングルームに基本理念を「書」で書いて掲げていて、家族の方等に解り易くしています。運営推進会議には必ず理念を記載し、ホームページにも掲げている。その他楽々だよりやよつばだより等作成し、家族の方等に配布している。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホーム自体が一番奥にあり、ご近所と隣接はしていない為交流は難しいが、散歩や買物、盆踊り大会等を利用して挨拶するように心がけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	隣接する特養や自治会と協力し、盆踊り大会、ソーメン流し、もちつきたい会等季節に応じたイベントに参加したり、市が行ったりするお月見会などに参加するよう努めている。現在はお話に来てくださるボランティアの方や、囲碁やハンドマッサージをして下さる方もいます。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議で、認知症の方の事例などを話しをしながら理解を求めている。その後ホームページに記載してどなたでも閲覧できるようにしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自分達が行っているケアがどうなのかを見つめ直す機会と考え、職員全員が理解し改善すべき所は全員で考え取り組みが出来るように努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に行い、会議の際の意見を参考に改善やホームの向上に活かし改善できるように取り組んでいる。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括センターの職員や地域の民生委員さんなどにも運営推進会議には参加して頂き、情報交換は行っている。その他は市町村からの見学や、ボランティアの受け入れなど行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	特別に学習の機会は設けていないが、過去に成年後見人制度を利用される可能性がある利用者がいた時に、家族・職員にどのような制度かの説明は行った。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体ミーティングで職員全員が理解できる様にし、職員全員で一丸となって注意を払いながら虐待防止に常に努めています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ前には、家族はもとより本人にも出来るだけ施設見学に来て頂くよう声掛け説明し、契約する際にも充分時間をかけて同意を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の意見や苦情などは可能な限り改善するように努めており、苦情受け入れなどの説明も行い、文書として掲示している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ホームでの利用料は毎月家族に持って来て頂き、その時には日常生活が記録してある日誌や新聞を渡している。その中には健康状態やおこずかい帳の写しも示してある。その他の来荘時にも、その都度お話をさせて頂いています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族来荘時には必ずお話を頂くようにし、意見を収集できるように努めている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々職員の意見交換をできる様に心がけ、全体ミーティングを2ヶ月に1回開催し、全員の意見が出せる場を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度状況に応じて、職員の勤務時間など調整して行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は、併設施設間の人事交流としては行われているが、開設以来一人しかいない。退職の場合にも新人には時間をかけて認知症の方の理解が出来るよう教育している。		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員全員が順番に施設外研修を受講し、併設施設で行われている研修（応急救護）などにも積極的に参加している。それらを職員全員で理解できるように取り組んでいる。		
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の同業者との交流というほどのものは行っていないが、実習生の受け入れなどは行っている。ただし、個々の他事業所の交流はみられる。		
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常の業務の中でのコミュニケーションにより悩みの聴取的な事を行ったり、全体ミーティングや納涼会などで職員相互の親睦を図る集いも行っている。		
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員の休みの希望を取り入れながら勤務表を組む努力をし、知識・技術向上の為の資格を取るなども考慮している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	「家での生活」が基本とし、買物や食事と一緒に行動することにより、いつ・どこでも話しやすい環境になっている。話掛けられた時には、職員はいつでも向き合う姿勢をとるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面接や入所前には出来る限りホームの見学を促し、実際に見て頂きながら色々相談にのっている。入所後もいつでも家族からの相談を受けれる様な環境作りに努め、改善に向け適切な対応を心がけている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所される本人はもとより家族にとって今現在必要な事や、これから必要になるかもしれない状況を想像し、情報を家族に伝え十分に考える時間を持ってもらえるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	実際問題、サービス利用前に場の雰囲気に馴染んで頂く事は困難である。面接時に本人の見学を促し、入所の際には使い慣れた家具など持って来て頂く。入所後はホームに馴染んで頂ける様声掛けしながら皆さんと一緒に過ごして頂いています。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の持っている力を引き出せるよう行い、一緒に生活をするなかでの、利用者の方から学ぶ事は多く、家族の様な生活を送って頂ける様努めています。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活を知って頂ける様、日誌などで理解してもらい、いつでも気軽に来荘できるような家庭的な雰囲気作りに努めている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族来荘時、入居者の方達がいつも笑顔で暮らしている様子を見て頂くことにより安心されていると思う。今現在の本人を受け止める気持ちを家族が持てるように声掛けしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人や家族の希望を聞き、出来るだけ外出や外泊など出来るように努めている。家族以外の親戚友達などが来荘された場合においても、家でもてなすような雰囲気をつくり、いつでも来て頂きやすく感じて頂ける様に努めている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>お互いが楽しく暮らせるように、性格や相性などを考慮し援助している。認知症のレベルや健康状態も含め、本人が求めている環境なども把握し、関わって頂けるよう努めている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>ホーム利用が出来ない状況になり、併設施設に移られた方がいましたが、散歩などを利用し会いに行ったりしている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人や家族来荘時に話をしながら、利用者の状態など報告し、どのような暮らしを希望するなど話をしている。それを踏まえて、職員間で協議し日々の支援に活かせるように心がけている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>家族やケアマネージャー、本人との会話の中から個々の生活暦の把握に努め、支援に活かせるよう努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>日々の状況（食事量やバイタルなど）を業務記録に記入し、生活内容は日誌に記録するなどし、職員全員で把握できるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の生活の中で本人の思いや、状況等を把握すると共に、家族来荘時に話をした思いなどを取り入れ、日々の職員間の話し合いや、全体ミーティングなどで意見交換をしながら行っている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の生活状況は職員全員で把握するように努め、健康状態など専門知識においては往診時など医師や看護師、薬剤師などの意見も取り入れ、状況変化に対応していくように努めている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活状況などの記録はもちろん、散歩・買物・外出・外食などの記録も記入し、職員が確認し把握できるように努めている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設ではなく、「家での生活を送る」との考えの下に支援を行っているので、時間の枠にとらわれる事無く柔軟に対応している。外出支援も初詣や紅葉狩りなど利用者の体調を考慮しつつ支援している。家族の希望の外泊にも対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方が良く来て下さり、話をしに遊びに毎週来てくださる方や、囲碁、ハンドマッサージなどして下さる人も協力して頂いています。その他消防署の方の研修や、市への行事に参加するなど色々な事が出来ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスを利用する事は行っていないが、併設してある特養などで行われる行事や慰問などには参加させて頂いています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在まで行われた事は無いが、2ヶ月毎に行っている運営推進会議のメンバーに参加して頂き、意見交換に努めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入所時家族に説明し納得して頂いた上で、当施設のかかりつけ医、訪問看護ステーションとの協力機関での受診支援をしている。月二回の往診や体調変化時の指示を受けるなど適切な医療を受ける支援を行っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関での医師は他の施設などの支援もされており、体調の変化や健康管理などの相談を受けて頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションとの協力をし、月2回の往診時の帯同や、24時間体制の受け入れ対応して頂き、その他体調面での質問なども随時受けて頂いている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には職員と家族と一緒に帯同し、病院の先生や担当看護師と話し合い、利用者の生活状況等の情報提供や、健康状態などの状況等の情報交換をしている。その後も家族・病院との連絡も密にとり早期退院に向けての意見交換を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入所時には「看取り介護に関する同意書」において、当施設で生活して行く中でのレベル低下が起こったときの対応を家族に説明している。ただ、入所時には元気な状態であるためイメージがわからない状況である為、入所後色々状況変化で話を家族と話をしている。</p>		<p>現在要介護5になっておられる方おり、家族の希望により、終末期はここでの生活を望まれている。入浴なども二人対応で行い、健康面においても医師、看護師と連携し取組んでいる。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>高齢者の体調の急変という事を念頭に職員間で話し、往診時には健康状態だけでなく、今後どのように支援を行っていただけるかなどを話し合っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>退所により、併設する特養へ移られた方の時には家族や関係者と話し合いを充分に行い、その後も他の利用者と一緒に散歩がてら会いに行ったりもしている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>全体ミーティングを通して個人情報や記録などの取り扱いの確認し、理念で掲げている内容の周知徹底を行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者本人が決定できる環境を第一に考え、日々利用者とのコミュニケーションを取り、何を望んでいるかを把握し実現できるよう努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々人の健康状態を見極め、本人の希望にそって生活できる支援をしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の行きつけの美容院には家族の協力の下行き、その他でも近所の理容室に行っている。白髪染めなども本人と一緒に購入し、職員が対応している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	家庭的雰囲気の中、職員と利用者が一緒に食事を作ったりし、同じテーブルを囲んで話をしながら食事が出るように配慮している。買物にも一緒に出掛けお好みの食材の購入に努めている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	コーヒーや紅茶など個人の好みに合わせて対応したり、買物時などで珍しいおやつなども購入して楽しむように行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日常生活での様子観察により、個々人の排泄パターンを把握し声掛け誘導を心がけている。外出時などの前にはトイレの声掛けをし、外での不安を取り除くようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々人で入浴日(週二回)は一応決めてあるが、現在では週3回の入浴がされている。本人からの希望があれば出来る限りの対応を行っている。入浴は基本的に、日中活動後の夕刻に行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入所前には眠剤を服薬されていた方も、日中活動する事により現在は使用していない。就寝時間も個々のペースでゆったりと過ごされた後休まれている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	常日頃より、利用者の得意分野で力が発揮できるように、手伝って頂ける仕事と一緒にしている。気分転換のドライブやピクニック、時には荘のバスに乗っての行く事もある。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入所時に家族に説明し、本人にお金を持って頂いているが、現在は殆んどの方が部屋の中にしまわれ、持っていること自体覚えていないのが現状である。買物に行く時持って頂くことに努めてはいる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個人の体調を見極めながら日々買物や散歩や畑に作物の収穫に行ったりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	全員揃って観劇日帰りツアーや初詣、家族の協力の下外泊や墓参りなど、その都度対応しています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からや知人からなどの電話は取次ぎをしているが、自ら電話を掛けられる事はない。希望があれば時間を考慮しかける場合もある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会というより、家に遊びに来て頂くという感じの雰囲気作りを心がけている。来荘時にはお茶など飲みながら話をされたり、皆さんと一緒に過ごして頂いたりもしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践            運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全体ミーティングなどを利用し、身体拘束や虐待の研修を行い職員全員に認識していくよう勤めている。日々も職員間で言葉の拘束などになっていないか等も確認し合っている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践            運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中は出入り自由で鍵を掛けていないが、家の考え方で夜間は鍵を閉めている。安全に暮らせるように、扉には鍵はつけてある。</p>		
67	<p>利用者の安全確認            職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員全員が意識して常に行っている。夜間の見回りも利用者の状態に応じて、その都度臨機応変意対応するよう努めています。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理            注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>個人の部屋には認知症のレベルの違いで管理を変えている。包丁などは一定の場所においてあるが、職員の目の届く所に置き管理している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み            転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ケアマニュアルを作成し、職員が一定の対応が出来るようにしてある。その上で普段からの職員間の声掛けしより、一人ひとりの状態を把握するよう努めている。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え            利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>応急救護の研修や、緊急時の対応マニュアルも作成してある。訪問看護ステーションも24時間対応して下さり、連携に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	併設している特養やデイサービスと合同に、年2回の避難訓練により、色々な状況を想定して訓練を行っている。地域の人々の協力というのは、立地条件的にも難しいと思われる。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族来荘時には必ず近状報告をすると共に、今後の生活や対応、希望について話をし対応に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	連絡ノート、日誌や毎朝の朝礼後の引継ぎなどに活用し、利用者のちょっとした変化も情報の共有に努め、変化に気付いたら速やかに医師、看護師との連携をしている。その後家族には必ず連絡を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	提携医療機関以外の受診でも、薬は提携している薬局で出して頂く様に心がけ確認している。職員もお薬手帳の利用やインターネットでその他資料を出すなりして理解に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食事量の確認や便表の記入により、職員の確認が出来るようにしている。日中の運動や、乳製品など便秘がちな人には特に注意している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食事後の声掛けや誘導により介助を行っている。義歯を利用されている方には夕食後外して頂き、ポリドントで消毒を毎日行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を毎日記録し、職員が確認できるようにしている。外出や、入浴後には水分補給をし脱水状態に陥らないよう心がけている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。(インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	マニュアルの活用や、インフルエンザの予防接種、検診など家族確認の下、毎年行っている。外出からの帰荘後は、必ず手洗いうがいを行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	グループホームの特徴である買物を毎日利用者で行く事により、余分な食材を購入する事なく、毎日新鮮な食材を使用している。調理器具や食器は最後には食洗機にかけ殺菌している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りにも花などを植え、家庭的な雰囲気作りに心がけている。玄関の表札も筆で書かれた物を掲げている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は、生活感や季節感のあるように心がけ、台所も対面式オール家電で、会話をしながら作れるようにもしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングルームにはテレビを中心に3人掛けのソファが4つあり、ダイニングテーブルは2つある。その場にビデオ・雑誌・新聞など置き自由に過ごして頂けるよう工夫している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所の時使い慣れた家具や食器もって来て頂き、今までの過ごされてきた生活習慣を大切にしている。ただ現状は、部屋で過ごされるのは就寝の時の方が殆んどである。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日皆さんと一緒に掃除をして換気に努めている。日中夜間共に外気との温度調節、湿度を考慮し行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活空間には手すりをつけ、ベランダの窓には段差を考慮したアルミ製の板を設置している。浴槽の中にも滑り止め手すりをつけてある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの状況を確認し、自尊心を傷つけないような声掛けをしている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにベンチを置き、季節感のある花壇を作っている。荘の周りには畑や花壇を作っており、季節の野菜の収穫や水やりなどをして楽しんで生活を送っている。		